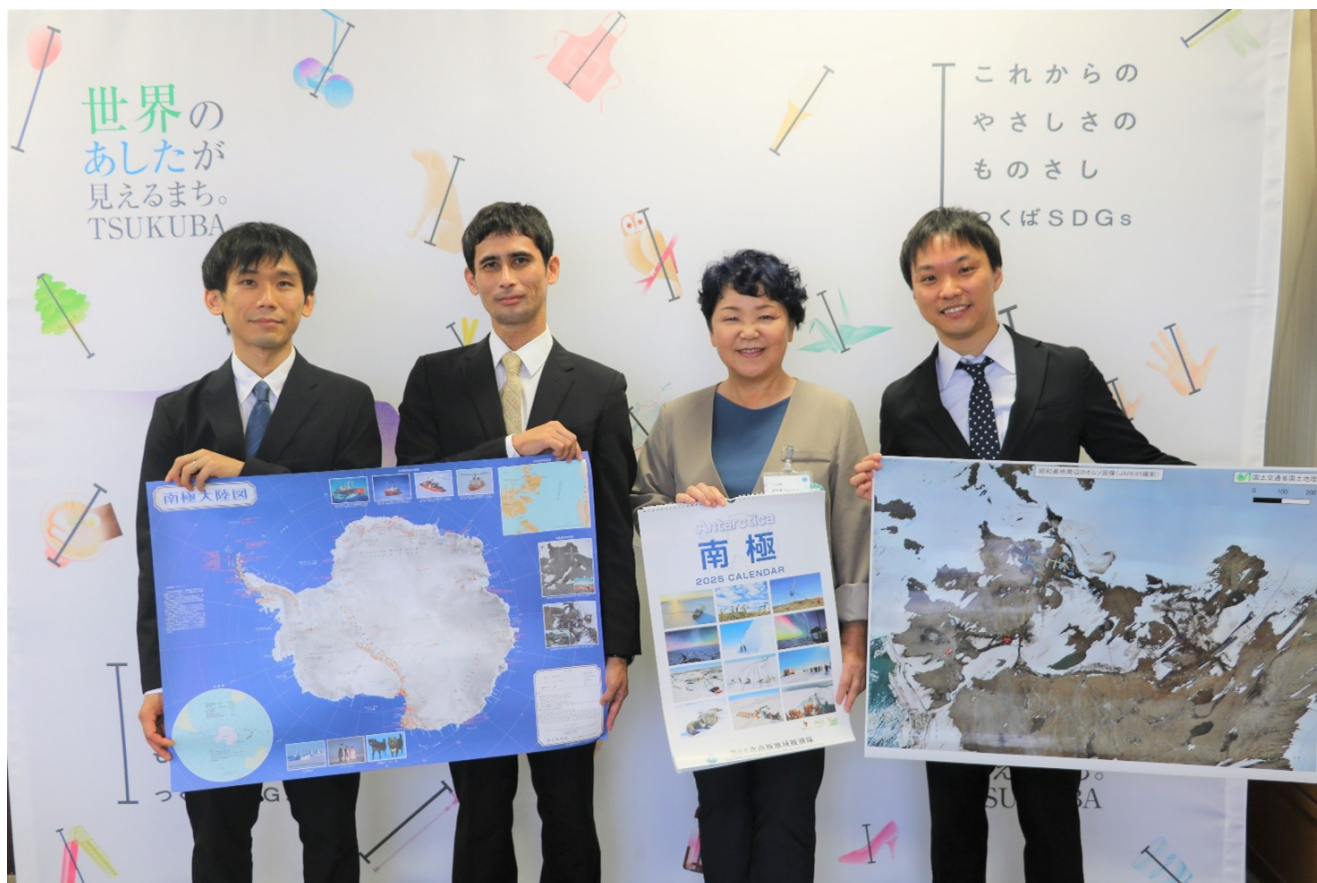




第66次南極地域観測隊員 つくば市を表敬訪問  
土井隊員（左から2番目）と松本副市長（左から3番目）

## CONTENTS

1. 第66次南極地域観測隊員 つくば市を表敬訪問…………… 2
2. モンゴル国において絶対重力観測を実施…………… 3
3. 第75回日本学校農業クラブ全国大会(平板測量競技会)で国土地理院長賞を授与…………… 4
4. 関西G空間フォーラム2024を開催…………… 5
5. 令和6年秋の叙勲…………… 6
6. パブリックコメント募集…………… 6
7. 「自然災害伝承碑」ウェブ地図「地理院地図」での公開数…………… 7
8. 10月の報道発表・12月の主な行事予定…………… 7

## 第66次南極地域観測隊員 つくば市を表敬訪問

第 66 次南極地域観測隊は、12 月 5 日（水）に成田空港からオーストラリア経由で南極の昭和基地に向けて出発します。また、出発に先だち、10 月 21 日につくば市に縁のある隊員がつくば市副市長を表敬訪問しました。

### ■ 国土地理院からは土井隊員が参加

第 66 次南極地域観測隊は、越冬隊 31 名、夏隊 58 名、夏隊同行者 25 名で編成され、夏隊員として、基本図情報部 <sup>どい かずたか</sup> 土井一剛画像調査課画像データベース係長が参加しています。

土井隊員は、南極地域観測事業における測地定常観測の地形測量として、無人航空機（UAV）による空中写真撮影を実施するほか、写真の位置精度を高めるための GNSS 測量と対空標識設置を実施する予定です。

また、測地測量として、基準点設置、相対重力測量を行うほか、国際 GNSS 事業（IGS）の重要な観測点である昭和基地の GNSS 連続観測局（SYOG）や氷河の後退に伴う地盤変動を検出するために設置した GNSS 連続観測装置の保守等を実施する予定です。

国土地理院は、第 1 次から南極地域観測隊に参加しており、継続的な観測を行うことにより、観測隊の活動を支える地理空間情報を整備するほか、国際協力を通じてより正確な地球の形状を捉える事業にも貢献しています。

### ■ つくば市副市長を表敬訪問



土井隊員（左から 2 番目）と松本副市長（右）

出発を前にした 10 月 21 日、土井隊員はつくば市に縁のある隊員や関係者とともに、つくば市の <sup>まつもと れいこ</sup> 松本玲子副市長を表敬訪問し、激励の言葉をいただきました。

土井隊員は、令和 7 年 2 月上旬に昭和基地を離れ、令和 7 年 2 月 25 日（火）に帰国する予定です。

（基本図情報部）



第 66 次南極地域観測隊として出発する土井隊員（左から 4 番目）

## モンゴル国において絶対重力観測を実施

国土地理院は、モンゴル国 土地行政管理・測地・地図庁との協力覚書に基づき、令和6年8月19日から9月15日にかけて、モンゴル国の3地点において絶対重力観測を実施しました。

### ■ 背 景

平成 30 年、モンゴル国 土地行政管理・測地・地図庁長官から国土地理院長に対して、モンゴル国での絶対重力観測について協力が依頼されました。以降の新型コロナウイルスの流行により、職員の派遣や絶対重力計の輸送手続きなどが思うように進みませんでした。今年ついに各種調整が完了し、モンゴル国での観測作業が実現しました。



絶対重力観測開始式

### ■ 絶対重力観測とは？

絶対的な重力値を求める方法です。国土地理院では、所有する FG5 絶対重力計（以下「FG5」という。）を用いて観測を実施しています。FG5 は自由落下式の絶対重力計で、真空状態の落下槽の中にある試験落体を自由落下させることで、落下した距離と落下に要した時間から重力の絶対値（重力加速度）を精密に観測する器械です。

得られた重力値は、土地の標高を決める際に必要になるほか、計量機器の校正や地下資源探査などに活用されます。

### ■ 絶対重力観測の概要

出張期間： 令和6年8月19日～9月15日

観測場所： モンゴル国重力一次網3点（図を参照）

観測者： 測地部物理測地課 小柳拓真係長  
おがわたくま  
小川拓真係員

使用機材： 当院所有の FG5



FG5 絶対重力計（矢印の部分が落下槽）



3 点の観測場所（外務省 HP の図に加筆）

モンゴル国内は、すべて自動車にて移動しました。現地では様々なトラブルや困難に見舞われましたが、全地点で無事観測を終えることができました。

### ■ 観測結果

今回観測した3点では、約40年前に現ロシア連邦が重力観測を実施しています。その結果と比較するとどの点においても、今回の結果は、約  $50 \mu\text{Gal}$  小さい重力値でした（ $1 \mu\text{Gal}$  は、地球表面の平均重力値  $9.8\text{m/s}^2$  の10億分の1に相当します）。

今後、モンゴル国では、今回の結果を基準としてモンゴル国内の重力網などを再構築していく予定とのことです。  
（企画部・測地部）

## 第75回日本学校農業クラブ全国大会(平板測量競技会)で国土地理院長賞を授与

第75回日本学校農業クラブ全国大会令和6年度岩手大会(主催:日本学校農業クラブ連盟、全国農業高等学校長協会ほか、後援:文部科学省、農林水産省、国土地理院、岩手県ほか)が岩手県盛岡市、花巻市、奥州市、葛巻町の各会場で、10月23日、24日の2日間にわたり開催されました。



平板測量競技会最優秀校(群馬県立吾妻中央高等学校)に国土地理院長賞を授与

全国大会は、「農業高校の甲子園」とも呼ばれており、農業関係高校で学ぶ生徒たちが日頃の学習成果の発表や実習等で学んだ成果を発揮し、生徒達相互の交流を目的として毎年開催されています。

東北地方で開催される全国大会は、第70回令和元年度南東北大会以来となります。本大会では「舞い上げれ 農クの絆 岩手で咲かせろ 新たな発見」、「輝く稲穂 豊かな自然 おでんせ岩手へ

未来に広がる農クの輪」の二つをスローガンに掲げ、全国から選ばれし農業クラブの精鋭が「プロジェクト発表会」、「意見発表会」、「平板測量競技会」、「農業鑑定競技会」、「家畜審査競技会」及び「クラブ員代表者会議」の6部門で競い合いました。

このうち平板測量競技会は、日居城野運動公園(花巻市)で日本農業学校クラブの各都道府県連盟が選出した49チームにより、平板による境界線測量及び三斜法・三辺法による面積計算について競い合い、平板測量の技術・正確さ・スピードなどが審査され、優秀な成績を収めた学校には国土地理院長賞が授与されるものです。

24日には、盛岡市総合アリーナで大会式典が開催され、6部門の最優秀者及び最優秀校の表彰式が執り行われました。また、大会式典の様子は、インターネットによりライブ配信が行われました。



平板測量競技会では、最も優秀な成績を収めた群馬県立吾妻中央高等学校に山本悟司<sup>やまもとさとし</sup>国土地理院長から国土地理院長賞の賞状と楯を授与しました。



平板測量競技会の様子



群馬県立吾妻中央高等学校の選手4名

なお、来年度は、第76回日本学校農業クラブ全国大会令和7年度西関東大会として開催される予定です。(東北地方測量部)

## 関西G空間フォーラム2024を開催

地理空間情報活用推進に関する近畿地区産学官連携協議会（会長：大阪工業大学吉川<sup>よしかわ</sup>眞名誉教授、事務局：近畿地方測量部）の活動の一環として、10月8日に大阪工業大学梅田キャンパスにおいて関西G空間フォーラム 2024 を開催しました。

関西G空間フォーラムは、地理空間情報を高度に活用する社会（G空間社会）の実現に寄与するため、産学官が一堂に会し地理空間情報の活用に関する情報共有や意見交換を行い、将来を展望することを目的に、毎年大阪市で開催しています。第14回となる今回は「さあ立ち上げ、新たなG空間社会」をテーマに開催し、372名の来場がありました。フォーラムでは、合同シンポジウムと展示会が行われました。



シンポジウム会場の様子

### 【合同シンポジウム】

合同シンポジウムは3部構成により、以下の内容で行われました。

第一部の測量技術講演会では、京都大学大学院工学研究科教授の須崎<sup>す さき</sup>純一氏より「衛星 SAR の測量業務への活用の可能性と課題」と題して、干渉 SAR の原理から現在のマニュアルの整備状況、今後の課題等について講演をしていただきました。国土地理院からは、飯田<sup>いいた</sup>洋基本図情報部長が「デジタル社会の実現に向けた電子国土基本図の3次元化」と題して、国土地理院による標高データの整備状況や電子国土基本図の特徴、3次元化に向けた今後の目標や仕様等について紹介しました。

第二部の関西地域 GIS 自治体意見交流会では、吹田市、兵庫県、（株）パスコ、大阪工業大学から地方公共団体や大学におけるこれまでの課題を克服した地理空間情報の利活用事例等について報告をしていただきました。

第三部の合同パネルディスカッションでは、朝日

航洋（株）の浅野<sup>あさの</sup>和仁氏をコーディネータとし、飯田基本図情報部長と第二部講演者とで、会場からの質問に回答しながら活発な意見交換が行われました。

### 【地理空間情報関連の機器・システム等の展示会】

13団体・企業による最新の測量機器や解析システム等の展示が行われました。近畿地方測量部は新しい基本測量に関する長期計画に基づく最新の取組等を紹介するパネル展示を行いました。



機器・システム等展示会場の様子

来場者からは、衛星データの利用が予想以上に進んでいたという驚きの声や、国の3次元地図に関する取組への期待等の感想が聞かれました。また、当日はNHK大阪放送局の取材があり、夕方以降のローカルニュースで放映されました。

近畿地方測量部では、今後とも地理空間情報活用推進のため、産学官で連携を図りながら、継続的に取組を進めて参ります。

（近畿地方測量部）

## 令和6年秋の叙勲

11月3日、令和6年秋の叙勲受章者が発表されました。

国土交通省関係の叙勲受章者は261名、うち当院関係者では4名の方が受章されました。

瑞宝小綬章 よしかね ひでのり 吉兼 秀典氏（元参事官）平成23年5月退官

瑞宝小綬章 つぎわ まさはる 津澤 正晴氏（元測地部長）平成21年4月退官

瑞宝小綬章 むらかみ まこと 村上 亮氏（元地理地殻活動研究センター長）平成20年3月退官

瑞宝小綬章 まつもと はるお 松本 治夫氏（元総務部調整官）平成26年3月退官

（総務部）

## パブリックコメント募集

パブリックコメント（意見公募手続）とは、規制の設定又は改廃にあたり、政省令等の案を公表し、この案に対して国民のみなさまから提出していただいたご意見・情報を考慮して意志決定を行う手続です。

国土地理院において、ご意見・情報を募集中の案件と、提出されたご意見・情報に対する国土地理院の考え方をとりまとめた実施結果をホームページに掲載しています。

各案件に関するお問い合わせや、ご意見の提出については、各欄に記載された「担当部課」までお願いします。

| 案の公示日         | 案件名                                                               | 担当部署       | 締切日            | 備考              |
|---------------|-------------------------------------------------------------------|------------|----------------|-----------------|
| 令和6年<br>11月1日 | 「測量法施行令の一部を改正する政令（案）」及び<br>「測量法施行規則の一部を改正する省令（案）」に<br>関する意見募集について | 総務部<br>政策課 | 令和6年<br>11月30日 | 行政手続法に<br>基づく手続 |

パブリックコメントは、国土地理院ホームページ>パブリックコメント

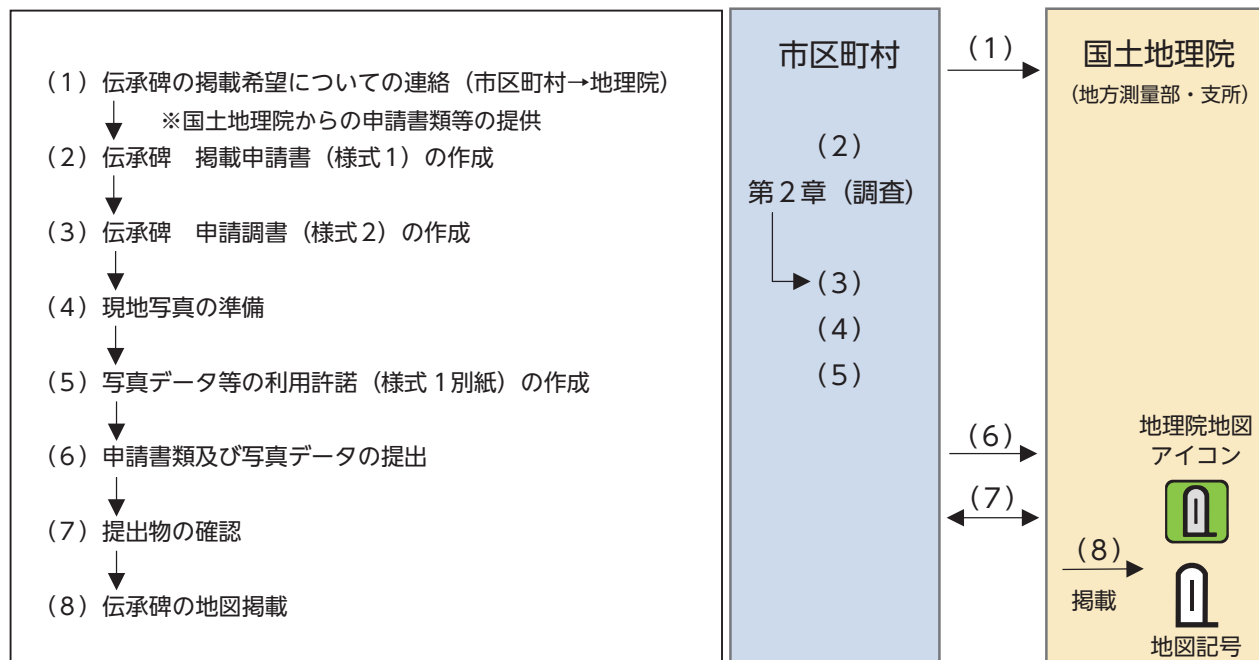
(<https://www.gsi.go.jp/PCOMMENT/public>) に掲載しています。

（総務部）

|    |      |     |      |      |   |
|----|------|-----|------|------|---|
| 47 | 都道府県 | 637 | 市区町村 | 2206 | 基 |
|----|------|-----|------|------|---|

詳細については、自然災害伝承碑のページ (<https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi>) をご覧ください。  
 [市区町村の担当者の皆様へ] 自然災害伝承碑に関する当院への情報提供にご協力をお願いいたします。

#### 自然災害伝承碑の申請の流れ



様式や手続きの詳細は「自然災害伝承碑に係る調査業務 実施の手引き 第6版 (令和6年3月)」  
[https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi\\_info.html](https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi_info.html) をご覧ください。

#### 10月の報道発表

| 発表日 | 件名                                                     | 担当部署                     |
|-----|--------------------------------------------------------|--------------------------|
| 8日  | 令和6年9月の地殻変動                                            | 測地観測センター<br>地理地殻活動研究センター |
| 15日 | 企画展 日本新しい標高を知ろう！を開催<br>—令和7年4月1日に衛星測位を基盤とする最新の値に改定します— | 総務部<br>測地部               |
| 29日 | 活断層の位置を知ろう<br>～地形からわかる「活断層」の痕跡を活断層図として公開～              | 応用地理部                    |

報道の内容は、国土地理院ホームページ> 2024年 報道発表資料一覧  
<https://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/press-2024.html> をご覧ください。

#### 12月の主な行事予定

| 月日          | 行事                             |
|-------------|--------------------------------|
| 10/22~12/22 | 地図と測量の科学館<br>企画展「日本新しい標高を知ろう！」 |

国土地理院広報は、  
 国土地理院ホームページ> 広報誌 > 国土地理院広報  
<https://www.gsi.go.jp/WNEW/koohou/> に掲載しています。

発行 国土交通省国土地理院  
 Geospatial Information Authority of Japan

〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番  
 TEL 029-864-6255  
 FAX 029-864-6441

連絡先：総務部広報広聴室  
 国土地理院ホームページ  
<https://www.gsi.go.jp/>